

令和3年度は、
吉川市ICT元年です！！

吉川市学校教育情報化推進計画第3版

《令和3年度
～令和7年度》

概要版



令和2年度、国の「GIGAスクール構想」と「新型コロナウイルス感染症対策」を受けて、一気に進んだ吉川市のICT環境整備。今後は機器の環境整備から、その効果的な活用に主眼が移っていくことになります。

今、国は「同じ内容を一齐に教える授業方法」から「個々の習熟度に合わせた学び」への変容が、ICTの活用により実現する、とGIGAスクール構想の中で打ち出しています。

平成31年度から本格運用が始まった校務支援システムと合わせ、児童生徒、そして教員が、「もっとも有効で便利な道具」であるICT機器を活用し、吉川市といたしましては、学校現場と力を合わせ、ソサイエティ5.0社会を生き抜くこれからの人材の育成を、目指してまいります。

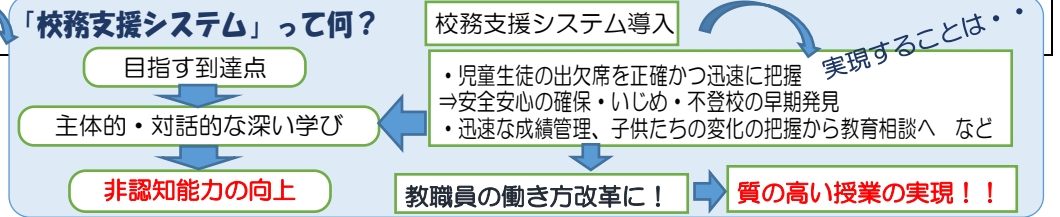
GIGAスクール構想・・・Global and Innovation Gateway for All～全ての人にグローバルで革命的な入り口を～
多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく公正に個別最適化された創造性を育む教育を、全国の学校現場で持続的に実現させる構想

☆情報化の推進に向けた年度別事業推進プラン

	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
I C Tを活用した教育の充実	調査	プログラムスタート・効果測定	効果検証を重ね、大型提示装置を活用した、より良い「吉川プログラム」を開発			
I C T活用による教員の指導力の向上	ICT 機器整備・導入	・ICT機器活用研修	・非認知能力向上研修	・児童生徒によるプレゼンテーション大会開催		
I C T 機器やネットワークの環境整備	児童生徒一人1台端末・無線LAN環境整備	・児童生徒一人1台端末環境の更なる充実整備・運用				・無線LAN環境運用等
校務支援システムの充実	・校務支援システムの運用		・テレワーク制度の整備・運用		※更新	

☆推進に向けての基盤づくり

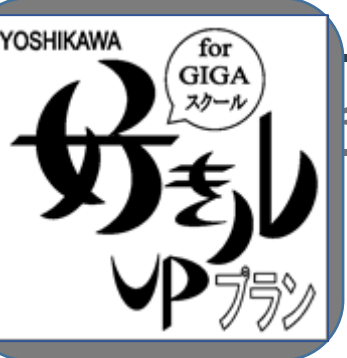
- ◇教員の人材育成
- ◇研修の充実と「ICT支援員」の配置
- ◇「吉川市版ICT活用プログラム」の開発
- ◇計画の進行管理と見直し



「誰一人取り残すことのない、公正に個別最適化された学び」の実現のため、吉川市ではICT利活用に向けた吉川市版研修コンセプト「YOSHIKAWA 好きルUPプラン」を定めました！

GIGAスクール構想
が求める

令和3年度 ICT利活用に向けた☆吉川市版☆研修コンセプト (抜粋)



はじめの歩

アナログも大事、デジタルの良さも知る
「失敗してもいい」の気持ちで
「とにかく、やってみる」

具体的な活用のイメージを示す
嫌い・嫌だなに
させない

教師の「もっとわかりやすい授業がしたい」の思い

ICT機器の機能
各アプリ・ソフト

1. 導入時における課題の予測スクール

2. ネット社会の諸課題、現状への対応・対策～情報リテラシー・モラルスクール～

4. 教科等・教育活動の活用ヒント・アイデアスクール

自分事として考え、体感できる



心ない(×)投稿、ネットいじめ、炎上、なりすまし、自撮投稿、釣り・騙し、権利侵害(著作権)、情報漏洩、差別・ヘイト、侵入・ハッキング、依存等

教科別 & 教科横断

活用のヒント・アイデアの紹介・共有

I: いつもと
C: ちょつとちがう
T: つかいかたを

ヒント・アイデア開発

例: MMTS (Multi Media Text Sets)
マルチメディア・テキスト・セット
一つのテーマ・トピックについて
様々なメディアを文字にリンク
させてセットとした教材。
(ウェブサイト、画像、動画、音声
ファイル、PDF等)

どんな使い方が
あるのか
使ってみよう
自分にもやれそう

3. 機能やツールの周知と実感体験スクール

Google for Education



【Classroom】
一斉・個別配布、双方向やり取り
・連絡事項・課題・提出物等
【フォーム】
・アンケート作成、集計・グラフ化、
・テスト作成、採点、集計等
【ドキュメント】
・外国語の音声入力・コメント機能
・MMTS (右参照)
【スプレッドシート】
・学校、家庭における生活上の各記録の可視化
・表計算による算数等の法則の発見等

【スライド】
・プレゼンシート作成
・グループ内スライド共有 等
【Jamboard ジャムボード】
・ホワイトボードで共同学習 等
【Meet】
・オンライン朝の会
(休校時の予行練習・学びの
避難訓練) 等

どうなってるの？
各学習ツールは
何が出来るのか？
そんなことも
できちゃうのか！

★ Google以外でも知っていると楽しいツール
・AIテキストマニング・キーボードペンチャー・カフト 等

教職員の意識改革に向けたマインドセット～どうしたら使うか～
◆ できることからの安心感 発見の喜びと開眼
・お土産、得るモノのある研修 気軽に開ける体制や機会
・横のネットワーク、プラットフォームの共有
・実践、活躍の積極的広報、メディア発信
・I: いつもと C: ちょつと T: つかいかたをおおらかなマインドセットづくり

◆ いつでも使える使い方
・朝・帰りの会の活用 出席確認・健康心理観察・連絡事項等
・保護者開東園行事 アンケート、プレゼン、クイズ、出欠等
・会議・研修・委員会 情報共有、提出物をペーパーレスに

子どもたち1人1人に個別最適化され、創造性を育める教育ICT環境整備のために、取り組んでまいります。
具体的な「一人1台」の活用イメージは裏面へ・・・

吉川市教育情報化の基本目標と基本方針

吉川市教育大綱『家族を 郷土を愛し 志を立て 凜として生きてゆく』の実現を目指し、吉川市の子どもたちが、「学力」「体力」「非認知能力」を高めることが出来るよう、ICTの効果的な活用を図り、教育の質の向上を目指す。

吉川市の「一人1台端末」活用のイメージ

吉川市教育大綱

「家族を 郷土を愛し 志を立て 凜として生きてゆく」

学習指導要領改訂

プログラミング教育の実施

2020.4 小学校
2021.4 中学校
2022.4 高等学校

基礎として、
情報活用能力が明記！

2024 大学入試
「情報Ⅰ」が
入試科目に

全ての子どもたちの
可能性を引き出す、
個別最適な学びと
協働的な学びの育成

吉川市が目指すもの
・学力 ・体力

【働き方改革】統合型校務支援システム稼働 2018～

【不登校支援】アウトリーチ事業 2019～

【特別支援】市内全小中学校特別支援学級設置

第5次吉川市総合振興計画

吉川市学校教育情報化推進計画

【文科省】教育の情報化 2018～2022

【文科省】【経産省】【総務省】GIGAスクール構想 2019～

【臨時交付金】新型コロナウイルス対策 2020～

ストレスなく使えるモノの整備
⇒一人1台環境の実現

実現の
ために

令和2年度には文科省の実証実験にも参加し、学校のICT化に向けた準備を進めてまいりました。

令和2年度 新時代の学びにおける先端技術導入実証研究事業

「多様な通信環境に関する実証事業」

ICTの研究をいち早く行った旭小学校において、「産官学（吉川市教育委員会、埼玉工業大学、東日本電信電話株式会社埼玉南支店）連携事業」により、大学などの研究機関が情報共有に使用する学術情報ネットワーク「SINET」に接続し、埼玉工業大学からプログラミングなどの遠隔授業を受けました。



マイクロビットを使ったプログラミングの授業



SINET接続による、埼玉工業大学からの遠隔授業

ステップ0 《使うこと》が習慣化する環境づくり

完了目標 令和3年度 前期

例えば、子供たちは

- ◇いつも手元に1台の端末を持つ。
- ◇電源を入れる、切るなど基本的な機器操作ができる。
- ◇キーボードを使った基本的な文字入力ができる。
- ◇カメラを使い、必要な情報を管理できる。など

正しく使うための準備を丁寧に ※使いながら

例えば、教師は

- ◇ICT活用の必要性を理解して授業が用意できる。
- ◇毎日1回以上、授業等(朝の会)で使用する。
- ◇ICT支援員と連携するなどして授業が用意できる。
- ◇児童生徒のデータやログの管理について理解する。など

ステップ3 教科の学びをつなぐ 社会課題の解決に生かす

完了目標 令和4年度
(5年度)

◆ICTを含む様々なツールを駆使して、
各教科等での学びをつなぎ探究するSTEAM教育*

※Science、Technology、Engineering、Mathematics等の各教科での
学習を実社会で課題解決に生かしていくための教科横断的な教育

探究のプロセスにおける様々な場面において、ICTを効果的に活用することが出来る

探究のプロセス

課題の設定

まとめ・表現

情報の収集

整理・分析

課題の設定 実社会の問題状況に関わる課題、進路や教科等横断的な課題

情報の収集 文献検索、ネット検索、インタビュー、アンケート、実験、フィールドワーク等

整理・分析 統計による分析、思考ツール、テキストマイニング等で分析

まとめ・表現 論文作成、プレゼンテーション、ポスターセッション、提言等で発信

※STEAM教育の推進方策については、現在、文部科学省の中央審議会で議論中

令和3年度試行的に新たに取り組んでまいります。

ICTを活用した プレゼンテーション大会の実施

「非認知能力の向上と社会課題解決」の実現に向けての営み
＋
児童生徒の学びだけに捉われない地域活性化

(将来的には地元企業を巻き込んだ地域活性化に繋がる
プレゼンテーション大会を目指します。)

社会課題
の
解決

非認知能力
の
向上

産・官・学
連 携



ステップ1 《すぐにも》《どの教科でも》《誰でも》活かせる 一人1台端末

完了目標 令和3年度 後期

例えば、◆検索サイトを活用した調べ学習

- ・一人一人が情報を検索し新聞記事や動画等を収集・整理する
- ・子供たち自身が、アクセスした様々な情報の真偽を確認・判断する

◆文章作成ソフト、プレゼンソフトの利用

- ・子供たち一人一人が自分自身の考えをまとめて共有する
- ・共同編集で、リアルタイムで考えを共有しながら学び合う



◆一斉学習の場面での活用

- ・定理や史実等のイメージを持ちやすくなるデジタル教材を提示する
- ・一人一人の反応や考えを即座に把握しながら、双方向的に授業を進める

◆一人一人の学習状況に応じた個別学習

- ・学習者用デジタル教材を活用し、一人一人の学習進捗状況を可視化する。
- ・様々な特徴を持った子供達にたいして、きめ細かな対応を行う。

ステップ2 教科の学びを深める。教科の学びの本質に迫る。

完了目標 令和4年度

◆国語 書く過程を記録し、よりよい文章作成に役立てる

- ・文章作成ソフトで文章を書き、コメント機能等を用いて助言し合う
- ・文章作成ソフトの構成機能を用いて推敲し、データを共有する

◆社会

ICTを活用して国内外のデータを加工したり、地図情報を可視化したりして、深く分析する。

- ・各自で収集したデータや地図を重ね合わせ、情報を読み取る
- ・分析した情報を、プレゼンソフトでわかりやすく加工して発表



◆算数・数学

関数や図形などの変化の様子を可視化して、学びを深める。

- ・画面上表示した二次関数のグラフを、式の値を変化させて動かしながら、二次関数の特徴を考察
- ・正多角形の基本的な性質をもとに、プログラミングを通して正多角形の作図を行う

◆理科

観察・実験を行い、動画を使ってより深い分析を。

- ・観察・実験を動画で記録することで、現象を丁寧に分析
- ・写真やグラフの挿入により、表現の幅を広げる

◆英語

海外とつながる「本物のコミュニケーション」により、児童生徒の発信力を高める。

- ・一人一人が海外の児童生徒とつながり、英語で交流・議論を行う
- ・ライティングの自動添削機能やスピーキングの音声認識機能を使い、児童生徒のアウトプットの質と量を大幅に高めることが可能



令和3年6月
吉川市教育委員会